

第12章 ユーロ：通貨管理への影響

エイドリアン・F・リー

JPモルガン・インベストメント・マネジメント、
為替オーバーレイ・マネージング・ディレクター

1999年1月のEMU（欧州通貨統合）の到来はヨーロッパの人々の資産配分と通貨配分の決定に重要な影響を与えるだろう。これには欧州通貨統合後のリスク軽減と収益増加の大きな機会も含まれる。興味深いことにヨーロッパの資産はヨーロッパ以外の投資家にとって以前より魅力が薄れている。それにもかかわらず投資家は欧州通貨統合後の時代においても通貨リスクを管理することを望み、そのリスク管理の最良の方法は資産と通貨の決定を分離することである。この二つの決定を分離することで投資家は両方の利点を得る。

この発表は欧州通貨統合とユーロのマクロ経済的影響を再検討し、ユーロがヨーロッパの人々に与える資産配分と通貨配分の影響を考察し、為替オーバーレイに与えるユーロの一般的な影響を論じることで、最終的にアクティブな通貨管理に対する十分な論拠を提示するものである。

結論は3つある。一つ目はEMUとユーロの到来によって、ヨーロッパの投資家は国際ポートフォリオにおいて収益増加とリスク軽減の大きな機会を獲得するだろうということである。二つ目はユーロがヨーロッパ以外の投資家に対していくつかの分散された周辺的な影響を持っているということである。これらの影響は実際にはヨーロッパ以外の投資家に

対して、ヨーロッパの資産を分散し、グローバルな資産に向けるべきであると示唆している。最後に為替オーバーレイの論拠はEMU以前と同様にEMU後も強いものである。ユーロはアクティブな通貨管理の論拠に対して、たとえ持っていたとしても限定的な影響しか持っていない。